

# 11 漢方治療学

## 治療と治療原則

### はじめに

漢方医学においては、病態に応じてさまざまな形の治法が考案されており、それらは長年の経験を踏まえ、体系化されて現在にいたっている。また治療に際しては一定の治療原則があり、臨床においてはこれらを常に考慮に入れておかなければならない。以下に、一般的な治法の考え方と治療原則の基本的な事項について述べる。

### 治法

それぞれの病態には、それに対応する治法が存在する。すでに『傷寒論』には、基本的な治法とそれに用いる処方、およびこれらを運用する際の基本原則が記載されている。治法は、その後の長い歴史の過程の中で発展し、その分類法もさまざまな形をとっていた。清代の程鍾齡<sup>ていしやうれい</sup>は、それまでの治法を総括し、汗・吐・下・和・温・清・消・補の八法にまとめた。現在の治法分類の基礎をなすものである。以下に紹介し、あわせて日常臨床でよく用いられる治法細則を概説する。

### 1 基本八法

程鍾齡が『医学心悟』（1732）の中で提唱した治法分類で、汗・吐・下・和・温・清・消・補の八法よりなる。現在はこれをさらに発展させた分類が用いられているが、この八法は治法の基礎として重要であるので、以下にその基本的な考え方を紹介する。

#### ①汗法

汗法は 肌表に侵入した外邪を、汗とともに排除する方法である。ただし、発汗は最終的な目的ではなく、腠理を開き、営衛を調和し、肺気をのびやかにし、血脈を通じさせることによって結果的に発汗を促し、邪を排出させて治療に導くものであり、汗法はこれらの働きをすべて包括している。したがって、悪寒・発熱を主体とする一般的な表証のほか、麻疹などの発疹の透発不全・腰以上の浮腫・化膿症の初期の発熱悪寒などに用いられる。

侵入した邪が寒を主体とするものであれば「温」を主とし、熱を主体とするものであれば「涼」を主とした発汗法を用いる。また、他邪を兼夾するものがあり、体質にも強弱があるので、補法・下法・消法など他の治法との併用が必要となることがある。

#### ②吐法

吐法は、咽喉・胸膈・胃脘などに停留している邪（痰

飲・宿食など）を、嘔吐させて排出する方法である。吐法は、正気を損傷しやすく、苦痛を伴うので、上記のような邪が壅塞している場合に限って用い、虚弱者・妊婦には慎重を要する。現在、ほとんど使われることはないが、日本では江戸時代中後期に盛んに行われた。特に、痰飲が肺を壅塞して発症した喘息や、心や心竅を犯して発症した精神異常に有効であるとの報告がある。今後の研究課題の一つである。

#### ③下法

下法は、体内（特に胃や腸）に停留している宿食・燥屎・実熱・冷積・瘀血・痰結・水飲など（多くは有形の邪）を、便とともに排出させる方法である。病状に寒熱の違いがあり、正気の状態もさまざまであり、さらに他の病邪を兼夾する場合があるので、病態に応じて、寒下・温下・潤下・逐水などを使い分け、必要であれば補法とともに用いる（攻補兼施）など、他の治法を併用する。

#### ④和法

和法は、基本的には、邪気が半表半裏の部位に侵入して邪正相争している病態を和解（調和させて解する）する方法である。ただし、後世になって、臓腑の気血陰陽の不調和・寒熱の偏在やアンバランス・虚実夾雜などを調和させる方法をも含めるようになった。邪が少陽（半表半裏）の部位に侵入して邪正相争しているもの、あるいは肝脾不和・肝胃不和・腸胃不和・気血不和などは、すべて和法を用いて治療する。したがって和法の範囲は非常に広い。

#### ⑤温法

温法は、裏に侵襲した寒邪を邪去したり、陽気の不足によって生じた内寒を改善する方法である。寒がどの臓腑や経絡に存在するか、また急性のものか慢性のものか、などの病態の違いにより、温中散寒・温經散寒・回陽救逆などの区別がある。

表 現在用いられている治法分類の例

1. 解表法	③清熱解毒	8. 補益法	⑤固崩止帯	④温化水湿
①辛温解表	④気血両清	①補気	12. 理気法	⑤祛風勝湿
②辛涼解表	⑤清臟腑熱	②補血	①行気	17. 祛痰法
③扶正解表	⑥清虚熱	③気血双補	②降気	①燥湿化痰
2. 瀉下法	5. 祛暑法	④補陰	13. 理血法	②清熱化痰
①寒下	①祛暑清熱	⑤補陽	①活血祛瘀	③潤燥化痰
②温下	②祛暑解表	9. 安神法	②止血	④温化寒痰
③潤下	③祛暑利湿	①重鎮安神	14. 治風法	⑤治風化痰
④逐水	④清暑益気	②滋養安神	①疏散外風	18. 消導化積法
⑤攻補兼施	6. 温裏法	10. 開竅法	②平熄内風	①消食導滯
3. 和解法	①温中散寒	①涼開	15. 治燥法	②消痞化積
①和解少陽	②回陽救逆	②温開	①輕宣潤燥	19. 湧吐法
②調和肝脾	③温經散寒	11. 固法法	②滋陰潤燥	20. 托裏排膿法
③調和腸胃	7. 表裏双解法	①固表止汗	16. 祛湿法	21. 驅虫法
4. 清熱法	①解表攻裏	②斂肺止咳	①燥湿和胃	
①清気分熱	②解表清裏	③泄腸固脱	②清熱祛湿	
②清営涼血	③解表温裏	④渋精止遺	③利水滲湿	